

3. 原作の漢語と翻訳の漢語との対照
 まず、「氷点」の漢語と翻訳の漢語を類型別に表で表してみると以下のようになる。

(表1)

| 分類基準 | I 類型 | II 類型 | III 類型 | 計 |
|-------|------|-------|--------|------|
| 異なり語数 | 1395 | 246 | 27 | 1668 |

表1で、顕著なのはI類型の占める比率が非常に高い点である。そして、II類型も少くない点が見られる。それでは、各々の類型別に見てみよう。

1) I類型
 「氷点」に出る漢語をそのまま使える場合をI類型として処理してみた。総異なり語数の約80%を占めるこの型は、表記と意味の用法でほぼ一致している。
 李漢燮氏の「日韓同形の漢字表記語彙」¹⁾によれば、以下の表2で分るように、『日本語教育基本語彙七種比較対照表』に収録されている漢語2604語の中で94.08%が同形語であるとのことである。

(表2)

| 語種 | 語数 | 韓国語との同形語 | 同形語の冲意味が大体一致する語 |
|-----|---------------|---------------|-----------------|
| 漢語 | 2604語(42.88%) | 2450語(94.08%) | 2418語(98.69%) |
| 和語 | 3056語(50.32%) | 172語(5.63%) | 166語(91.51%) |
| 混種語 | 169語(2.77%) | 14語(8.33%) | 12語(85.71%) |
| 外来語 | 245語(4.03%) | | |
| 計 | 6073語 | 2635語(43.39%) | 2596語(98.52%) |

さて、I類型の例をあげると次のようである。
 例① ①原作の漢語： 容疑者 捜査中 絞殺 留置場 罪悪感 逮捕
 ②翻訳の漢語： 용의자 수사중 교살 유치장 죄악감 체포
 (容疑者) (捜査中) (絞殺) (留置場) (罪悪感) (逮捕)

①：自殺 姿勢 長女 新聞 殺意 患者 期待 刑事 手術台
 ②： 자살 자세 장녀 신문 살의 환자 기대 형사 수술대
 (自殺) (姿勢) (長女) (新聞) (殺意) (患者) (期待) (刑事) (手術台)

①：表情 一部 意識 院長 眼帯 哀願 犯人 写真 肋膜炎
 ②： 표정 일부 의식 원장 안대 애원 범인 사진 늑막염
 (表情) (一部) (意識) (院長) (眼帯) (哀願) (犯人) (写真) (肋膜炎)

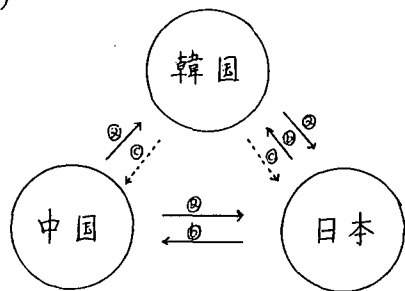
このように、日韓同形漢語が多数存在する背景は何であろうか。沼本克明氏は、「日本漢字音の歴史」の中でこう述べている。

中国漢魏の文化は二世紀末頃から交渉の有った楽浪郡を経て三

古和しがは、に
 上大着我で手
 国…定てまの
 中…にし前々
 頃。既と以人
 のた、郎期の
 これで、古喬
 もさ程の推末
 音植過字もの
 字移の文とそ
 漢にそ記くが
 。島、書な及
 た半めの人
 れ鮮深人…化
 ら朝を化…帰
 えて涉帰。る
 伝、交波たす
)にと第な心
 韓(文化)が中
 辰文韓音とを
 韓が馬字こ濟
 弁字(のれに
 韓の濟魏と主
 韓統百漢植て
 馬糸はた移全
 (の庭いにど
 韓音朝て固殆

っら国幅・韓にな国、言
 持か中大、特に韓と
 を国は・と、じらの
 係韓に立るり同かも
 関て語埋よおが固た
 なし漢・にて形中
 接その訳氏れ語の取
 密、語内變入の代を
 に韓国・漢け記時態
 い韓韓取李受表の形
 互ら、受、を字古の
 はから、葉漢は入
 固固が口合言、れ輸
 三中な入場のでこ逆
 のにし「のくの中、
 本かか、こ多のると、
 日確しば、ら語ある
 ・は、えるかたで見
 固語る例あ語ったら
 韓漢あ、が本入こ
 ・字うあな、かと経
 固字上が「後語³⁾」う
 中漢上が「後語³⁾」う
 昔。たれ場合支末日あ
 する。たれ場合支末日あ
 に、あら、い、紀のて本
 うでえな物世半然日
 のたへて、織19前当
 こい日本親子語世の国
 て日出親国20る韓え
 漢語勿
 のある。
 自出
 出で
 日本
 日わ
 とた
 漢語
 の定
 自出
 出た
 漢語
 の定
 自出
 出た
 漢語
 の定
 自出
 出た

(図1)



- ⊗ : 中国出自語
- ⊙ : 日本出自語
- ⊙ : 韓国出自語

図1で中国と日本との関係、自らが漢語を作った他国に送る役割をして
 り、なかつたよであらうか。こ
 の点、今残しておきたい。分類ができる。その類型
 の基準となるのは、漢語をそのまま使用されている場合
 IA類型：日本語の漢語と同形があるが、翻訳では別の漢語を使用し
 IB類型：日本語の漢語と同形があるが、翻訳では非漢語(伝来の韓
 IC類型：日本語の漢語と同形があるが、翻訳では非漢語(伝来の韓
 国語)を使用している場合
 などである。前頁の例①がある。IA類型がI
 上記のIA類型の例として、前頁の例①がある。IA類型がI
 類型の中、占める比率は60%以上である。「氷炭」に出ている
 漢語のほぼ半分以上がそのまま使われている。

IB類型とIC類型もIA類型のようにそのまゝ使えるが、翻訳で別の漢語と非漢語で対応している。それぞれの例を見ると、以下のようになる。

| | | | | | | | | | |
|----|---------|-----|----|-----|----|-----|-----|----|----|
| 例② | ① 原作の漢語 | 旅行中 | 残酷 | 狼狽 | 劍御 | 仕絶 | 周辺 | 一行 | |
| | ② 翻訳の漢語 | 出張中 | 残忍 | 鹿慌 | 抑制 | 凄惨 | 近処 | 一行 | |
| ① | 通報 | 出産 | 親友 | 不愉快 | 相談 | 鉄砲 | 供養 | 散考 | 懇談 |
| | ② | 制報 | 解産 | 親旧 | 不快 | 議論 | 銃 | 命福 | 散策 |
| ① | 掃除 | 悪運 | 台帳 | 日曜日 | 屋内 | 美容院 | 題名 | 中止 | |
| | ② | 清掃 | 厄運 | 帳簿 | 休日 | 室内 | 美容院 | 題目 | 取消 |

| | | | | | | | | | |
|----|----------|------|------|-----|-----|------|-----|------|------|
| 例③ | ① 原作の漢語 | 微動 | 急激 | 助長 | 安心 | 扼殺 | 内外 | 不足 | |
| | ② 翻訳の非漢語 | 공작 | 갑자기 | 커진다 | 민중다 | 죽인다 | 안팎 | 포자라다 | |
| ① | 他意 | 訪問 | 印象 | 人間 | 洗濯 | 孤独 | 無断 | 再開 | 繁荣 |
| | ② | 판문 | 다녀가다 | 느낌 | 사람 | 빨래 | 외롭다 | 말없이 | 다시두다 |
| ① | 注文 | 登校 | 生徒 | 中央 | 歌謡曲 | 悪漢 | 嘲笑 | 侵入 | 口実 |
| | ② | 부탁하다 | 학교에 | 아이들 | 한복판 | 노랫소리 | 나쁜놈 | 들어오다 | 핑계 |

以上の例の漢語は、IB類型の漢語である。例②の漢語は、IC類型の漢語である。例③の漢語は、II類型の漢語である。例④の漢語は、III類型の漢語である。例⑤の漢語は、IV類型の漢語である。例⑥の漢語は、V類型の漢語である。例⑦の漢語は、VI類型の漢語である。例⑧の漢語は、VII類型の漢語である。例⑨の漢語は、VIII類型の漢語である。例⑩の漢語は、IX類型の漢語である。例⑪の漢語は、X類型の漢語である。例⑫の漢語は、XI類型の漢語である。例⑬の漢語は、XII類型の漢語である。例⑭の漢語は、XIII類型の漢語である。例⑮の漢語は、XIV類型の漢語である。例⑯の漢語は、XV類型の漢語である。例⑰の漢語は、XVI類型の漢語である。例⑱の漢語は、XVII類型の漢語である。例⑲の漢語は、XVIII類型の漢語である。例⑳の漢語は、XIX類型の漢語である。例㉑の漢語は、XX類型の漢語である。例㉒の漢語は、XXI類型の漢語である。例㉓の漢語は、XXII類型の漢語である。例㉔の漢語は、XXIII類型の漢語である。例㉕の漢語は、XXIV類型の漢語である。例㉖の漢語は、XXV類型の漢語である。例㉗の漢語は、XXVI類型の漢語である。例㉘の漢語は、XXVII類型の漢語である。例㉙の漢語は、XXVIII類型の漢語である。例㉚の漢語は、XXIX類型の漢語である。例㉛の漢語は、XXX類型の漢語である。例㉜の漢語は、XXXI類型の漢語である。例㉝の漢語は、XXXII類型の漢語である。例㉞の漢語は、XXXIII類型の漢語である。例㉟の漢語は、XXXIV類型の漢語である。例㊱の漢語は、XXXV類型の漢語である。例㊲の漢語は、XXXVI類型の漢語である。例㊳の漢語は、XXXVII類型の漢語である。例㊴の漢語は、XXXVIII類型の漢語である。例㊵の漢語は、XXXIX類型の漢語である。例㊶の漢語は、XXXIX類型の漢語である。例㊷の漢語は、XXXIX類型の漢語である。例㊸の漢語は、XXXIX類型の漢語である。例㊹の漢語は、XXXIX類型の漢語である。例㊺の漢語は、XXXIX類型の漢語である。例㊻の漢語は、XXXIX類型の漢語である。例㊼の漢語は、XXXIX類型の漢語である。例㊽の漢語は、XXXIX類型の漢語である。例㊾の漢語は、XXXIX類型の漢語である。例㊿の漢語は、XXXIX類型の漢語である。

| | | | | | | | | | |
|----|---------|-----|----|-----|-----|----|-----|----|----|
| 例④ | ① 原作の漢語 | 大地震 | 災外 | 前借金 | 喫茶房 | 交番 | 洗面所 | | |
| | ② 翻訳の漢語 | 大地震 | 災外 | 前借金 | 喫茶房 | 交番 | 洗面所 | | |
| ① | 風呂 | 役得 | 世話 | 本気 | 作法 | 病人 | 利口 | 機嫌 | 調子 |
| | ② | 沐浴 | 役得 | 世話 | 本気 | 作法 | 病人 | 利口 | 機嫌 |

続いて、原作の漢語が省略されている場合を考慮してみよう。

例① ①原文：いつものように無造作にカバンを
②翻訳文：여느때와 마찬가지로 O 가방을 나쓰에게

①渡して, 啓造は あがりがちに 腰をおろした。
②넘겨주고나서 게이조오는 천관 마루에 걸터 앉았다.

①高木は カッコハ、 ゲイツと アゴの無精ひげを
②다카씨는 힘껏 툄 O 수염

①一本ぬいた。
②한개를 뽑았다.

ては、の障に左
れ例れ語支無能
さのら国上有形
訳「せ韓味のな
訳作とは言葉の
が造形は、言よ
分無対精はるの
部「に無場合の
の。う「場で例
」か上のう訳時、
精うの「う翻、
無ろ」げうくう
「だれひこか狙
、い理精こを狙
」な早無だ。とを
造「ア「う。効
作「い「う。現
無れ語面いろ表
「さ漢反なかる
漢訳非。が良よる。
のせがな言方略あ
作ないのるた省で
原。なてきしもの
で、る。なてきし
で、る。なてきし
例が対訳対有言な
のの対がにれず、に
上いでの中けらう、
いな漢と語なけら
い漢と語なけら

る。「愛、例は
あ「日る。ソ
が死前あ
約生「節
制「で、音
い、中一般
わのはが、大
使の例は、
り、のの例
ま、記の、
あ、上読こ、
は、さ。箱こ、
して用る。重、
とに、で、言
字主語ると多
一、しなで、
が、しなで、
る、しなで、
お漢の可、
は、の等、
み、の等、
誦、韓、
音、韓、
論、韓、
勿、韓、
例、韓、
情、韓、
窓、韓、
音、韓、

るな日学漢で影
い、活は、文の、
て、の語し、者、
し、類用か、翻、
対、籍のし、最、
に、書類、ら、文、
う、一般、だ、特、
の、一、般、し、る、
ど、は、一、般、し、る、
が、業、一、般、し、る、
語、作、業、一、般、し、る、
翻、訳、業、一、般、し、る、
と、訳、業、一、般、し、る、
漢、語、業、一、般、し、る、
出、回、る、業、一、般、し、る、
に、韓、語、業、一、般、し、る、
」を、劣、り、業、一、般、し、る、
矣、説、り、業、一、般、し、る、
氷、小、な、業、一、般、し、る、
に、本、が、業、一、般、し、る、
り、日、が、業、一、般、し、る、
お、ま、た、業、一、般、し、る、
か、動、韓、類、業、一、般、し、る、
漢、類、業、一、般、し、る、

のめ今う。入る。多学語
形占ら思輸言え上を漢
同をかとの。見値語の
韓が代る明る。数本語
日80古あ文あ多。日国
、約はが術でがは、韓
とのれ係技け語合め、
す語。な新る出いの勿の表
介りが接とい日本な語。易意味術
紹なの密程と日し漢る。易意味術
を異ると過つと在式れ分、よの
果総出係成持語存本らははに訳
結、が関形を自に日じ場合略翻
たで果際性出語が慈場合略翻
みい結園似国漢語くのた、よ
てらなの化類中の漢し語れり面
しくう国文の、語の難漢さたの
化語よ三字高は国%に式理え語
類型95の国漢はに韓17常本処加漢
類13こ韓る語語が約非日てをは
て約で・上漢漢語はて非日てをは
つし景本にのの漢にっいとしてこ
基とな・伝三国語の」として型っ
に型ん国の、韓本氷人持並たあ
準類ど中籍ら、日「国を、しで
基I.の漢かと、韓性してに態
類はるで・等る方、韓性してに態
分語いま字程え一なす類を習らう。
漢て日漢過か、く習となす思

若干翻な三。う。人々
、」調。史かる人
が、」調。史かる人
た氷くあ韻良すう。
み「詳で音ば習らう。
て、て等・れ学あ
しは、て等・れ学あ
析れつた兼用語る
分そに、語かの分両が
に。語かの分両が
り。語かの分両が
なた出し漢を日韓義
介しの討、籍、の
自摘語核は書ど、の
、指国分場合連ほ研
ら、指国分場合連ほ研
が、指国分場合連ほ研
が、指国分場合連ほ研
な、指国分場合連ほ研
し、指国分場合連ほ研
を、指国分場合連ほ研
業、指国分場合連ほ研
作、指国分場合連ほ研
化、指国分場合連ほ研
型、指国分場合連ほ研
類、指国分場合連ほ研
、指国分場合連ほ研
に、指国分場合連ほ研
り、指国分場合連ほ研
終、指国分場合連ほ研
の、指国分場合連ほ研
の、指国分場合連ほ研
の、指国分場合連ほ研
の、指国分場合連ほ研

* 注

- 1) 李明漢書院「日韓同形の漢字表記語彙」(『日本語学』8月号, 1984, P.104)
- 2) 沼本克明「日本漢字音の歴史」(昭和61年, 東京堂出版)PP.88-89
- 3) 注1)と同じ P.110

* 参考文献

1. 田中章夫『国語学概説』(昭和五三年・明治書院)
2. 沼本克明『国語学概説』(昭和六一年・東京堂出版)
3. 三浦綾子『氷点』(昭和五七年・角川書店)
4. 三浦綾子著『氷点』(1988・汎友社)
5. EUNG EN A. NIDA 著・成瀬武史訳『翻訳学序説』(昭和四七年・関文社)
6. 李漢燮『国語学概説』(1989・韓信出版社)
7. 李明漢書院「日韓同形の漢字表記語彙」『日本語学』8月号(1984)
8. ソウル大学校語学研究所『韓日語対照分析』(1988・明志出版社)